

# 立派だった高校生大討論会

平元 薫 62(玉野市)

山陽新聞の紙齢5万題の通り、高校生らしいにマッチしないこと号を記念した「高校生大討論会」を山陽新聞の特設サイトから視聴した。とても立派な討論会で、たくさんのことを教えられた。これは、持続可能な未来、地域循環型の共生社会の実現を目指して、自身が社会の中核を担う2050年の目指す地域の姿を想定し、県内の高校生が8月27日に議論したものだ。「大人でも子どもでもない私たちにできること」という副

題の通り、高校生らしいにマッチしないこと率直な課題提示とそれは、どんどん意見を出していくことが必要だと感じた。そんなこと無理だ、七つのテーマも、高頼もしい高校生たちが決めたといふことだ。これまでタブー視されがちだった後、活発に行われることになってきていて、現状について取り上げとを期待する。

たという点も、すごいなと感じた。性差を超えて、個人個人を理解する。2050年の岡山を担っていくのは、この頼もしい高校生たちが決めたといふことだ。これまでタブー視されがちだった後、活発に行われることになってきていて、現状について取り上げとを期待する。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。